

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Postoperative radiotherapy for primary mucosal melanoma of the head and neck	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	MMCQ14-3	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（IV）	
	Pubmed ID	15578718	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	103	
	号	2	
	ページ	313-9	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2005 年	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Temam S	Guytave-Roussay 研究所
その他著者 1		Mamelle G	同上
その他著者 2		Marandas P	同上
その他著者 3		Wibault P	同上
その他著者 4		Avril MF	同上
その他著者 5		Janot F	同上
その他著者 6		Julieron M	同上
その他著者 7		Schwaab G	同上
その他著者 8		Luboinski B	同上
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	頭頸部原発の悪性黒色腫に対する術後照射の局所制御率および生存率に与える影響を検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	Guvtave-Roussay 研究所	
	対象者	1979～1997 年までに治療された頭頸部原発例 142 例のうち、粘膜原発例で遠隔転移がなく、根治的手術や術後放射線治療を行った 69 例 原発：鼻腔・副鼻腔（46 例）、口腔（19）、中咽頭（4） T 病期：T1-2（47 例）、T3-4（22） N 病期：N0（52 例）、N+（17）	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず（3）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず（3）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず（14）	
	介入（要因曝露）	30 例（43%）：手術単独（局所切除：15 例、広範囲切除：54） 39 例（57%）：手術＋術後放射線治療 術後照射：70 Gy/35 回（29 例）、50 Gy/25 回（10 例）	
	エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分
		1	局所制御率
	2	遠隔転移率	1.主要 2.副次 3.その他（3）
	3	生存率	1.主要 2.副次 3.その他（3）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（ ）

	<p>主な結果</p>	<p>局所再発：37例（54%） 遠隔転移：47例（68%） 2年生存率：47%、5年生存率：20% 局所制御：早期T病期でかつ術後照射施行＞進行期T病期かつ術後照射非施行例 遠隔転移：進行期T病期、N(+)症例＞早期T病期、N(-)症例 多変量解析：局所制御に与える因子（T病期、術後放射線） 遠隔転移に与える因子（T病期、N病期） 生存に与える因子（T病期） ※遠隔転移および生存に術後照射は予後因子とはならなかった。</p>
	<p>結論</p>	<p>頭頸部の粘膜原発例の予後は不良であり、局所制御も不良で、遠隔転移も多い。 腫瘍が小さくても術後放射線治療を行うべきであろう。</p>
	<p>備考</p>	
<p>レビュワーコメント</p>	<p>レビュワー氏名</p>	<p>鹿間直人</p>
	<p>レビュワーコメント</p>	<p>後ろ向き研究ではあるが、手術単独群と手術＋術後放射線治療群の間に大きなばらつきは少なく（T病期、N病期は術後照射施行群の方に進行期が多い）、術後照射の有用性を検討するのはある程度は妥当であろう。 1回線量として2 Gy/回を使用。（大線量を用いていない） レベル I V</p>